

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

東日本大震災、原発事故、 そして幾多の危機を乗り越える

全国酪農業協同組合連合会
代表理事会長 砂金甚太郎

震災から1年経過して

監査室だより／

リスクマネジメントとタイタニック号沈没

グループ活動紹介／愛知県酪農業協同組合青年女性部



酪農トピックス／

「なんらく新春交流会」開催(南信酪農協より)ほか

平成23年度監事・役職員研修会

酪政連活動報告

日本酪農見て歩紀(佐賀県嬉野市(有)ナカシマファーム)

平成24年 各地域酪農青年女性(婦人)会議 酪農発表大会



3

2012 March No.558



全国酪農業協同組合連合会

東日本大震災、原発事故、 そして幾多の危機を乗り越える

全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長

砂金 甚太郎



全国の会員・酪農家の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃より、弊会事業に特段のご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、東日本大震災から一年が経過しました。

一年前、地震と津波による甚大な被害が続々と明らかになり、また、原発事故の発生に日本中が動揺している最中、私は本所に設置した緊急対策本部を指揮していました。

停電や道路損壊により集荷できない生乳が廃棄され、原発事故により避難指示や出荷規制がかけられる中、何としても東北と関東の酪農を守らねばならない、

と無我夢中でした。

農水省にも何度も足を運びました。そして、放射性物質に汚染された自給飼料の代替品購入に対する国の支援、被災地の酪農生産基盤を回復させるための搾乳牛の導入助成等について率先して働きかけ、実現していただくことができました。

しかし、今も東北と関東の酪農は、牧草地の土壤汚染、汚染飼料の廃棄、廃用牛の滞留、風評被害等に苦しんでいます。また、多くの酪農家が、いまだに避難生活強いられています。

さらに、原発事故による放射性物質の問題は月日が経過するにつれ拡大し、その影響はいまや東北と関東に限られたものではなく、全国の酪農経営や牛乳乳製

品の消費にも現れ始めています。

また、2年続いた猛暑、各地で大きな被害をもたらした台風、豪雪といった自然災害、何ら有効な国内対策も示されないままとなっているTPP参加問題等、酪農経営を揺るがす危機が発生しています。

これら幾多の危機に対し、その解決がいかに困難であろうとも、酪農専門農協の全国連の会長として、私はその責務を果たしていく決意です。

今後とも、皆様のご理解とご鞭撻を切にお願い申し上げます。

(平成二十四年三月)

震災から1年経過して

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、地震だけでなく、その後に沿岸部を襲った津波、また原子力発電所事故により、東北・関東地域を中心に、多くの方が被災されました。

酪農業に与えた影響も甚大で、多くの酪農家が被害に遭われました。震災発生直後より、関東・東北地方では大規模停電となり、搾乳・冷却・貯蔵ができなくなっただけでなく、手での搾乳、廃棄を余儀なくされました。数日後にはほぼ全ての県で電氣は復旧したものの、集乳施設、乳業工場の停止や減産により、地域によっては、1週間経過後も生乳廃棄は続きました。また、3月12日には東京電力福島第1原子力発電所爆発の影響により、福島県の半径20km圏内に避難指示が発令され、70戸の酪農家が牛舎に牛を残したまま避難せざるを得ない状況となりました。その後、避難区域は更に拡大し、多くの方が避難や自給粗飼料の利用制限を強いられました。停電、燃料不足、原発事故等の影響により廃棄された生乳は、東北6県と、茨城県、栃木県で、約4万tにも及びました。

全酪連と致しましては、即日、本所に緊急対策本部、また仙台支所に現地対策本部を設置し、関係機関とも連携を図りながら、できうる限りの対策に取り組んでまいりました。

震災の影響により乳業工場も被害を受け、本会北福岡工場(岩手県)も、一時操業停止となりましたが、2日後には、生乳の受入れ及び加工処理を再開しました。子会社飼料工場の石巻飼料(株)(宮城県)にも津波が押し寄せ、操業停止状態となりましたが、東北地域への飼料供給は釧路、鹿島、東海、西日本の各工場にて代替製造し、それぞれの配送ルートを確認し、3日後には飼料供給を再開しました。しかし、その後も燃料不足により配送困難な状態が続きました。石巻飼料(株)は震災発生直後より復旧作業を続け、7月には製造を再開し、現在、安定的に飼料供給を行っております。また、3月17日に全酪連、日本酪農政治連盟、(社)全国酪農協会、(社)日本ホルスタイン登録協会の酪農4団体で「東日本大震災対策酪農団体協議会」を設立し、募金活動及び支援のための政策要

求活動を開始しました。募金活動においては、酪農関係者のみならず、一般の方々からも募金していただき、8月末までに、総額19,165万円となり、被災した酪農家の支援のため、東北及び関東生乳販売農業協同組合連合会、並びに福島県酪農業協同組合へ贈呈いたしました。改めまして、ご協力いただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。

一方、全国酪農青年女性会議においては、震災の影響を勘案し、「第41回全国酪農青年女性酪農発表大会」を延期としましたが、被災した酪農家の「このような時だからこそ、開催してほしい」との要望もあり、被災地を励ます催しとして、7月14日、札幌市において「全国酪友フォーラム」が行われ、被災した酪農家の「このようにがんばろう日本の酪農」を開催しました。フォーラムでは、全国の酪農家及び酪農関係者360名とともに、苦境を乗り越えていくことを確認した宣言文を採択し、被災地への応援メッセージとなりました。この宣言文はフォーラム終了後、全国酪青女大井委員長より、鹿野農林水産大臣へ手渡され、復興に向けての決意を伝える

とともに、引き続き国からも支援していただくよう要望しました。また、例年6月に実施している「父の日に牛乳(ちち)を贈ろう!」キャンペーンでは、避難所への牛乳配布や、消費者への安全性のアピール等、復興支援活動も行いました。

震災から1年経過し、地震の直接的被害に遭った酪農家のほとんどが事業を再開され、現在は東北の生乳生産量も回復基調となり、復興の足取りは着実に進んでいます。

一方、原発事故問題においては、避難を余儀なくされた酪農家のうち、他地域へ移り酪農を再開されている方もいらっしゃると思いますが、いまだに避難生活を強いられている方も大勢いらっしゃると思います。また、稲わら、牧草、土壌等への放射性物質による汚染が広範囲に及んでおり、深刻な状況は続いています。引き続き、関係機関と連携し、広大な牧草地の除染への取組み、代替飼料の確保、政府への要請活動等、被災地域の日も早い復興に向け、尽力していく所存です。

リスクマネジメント と タイタニック号沈没

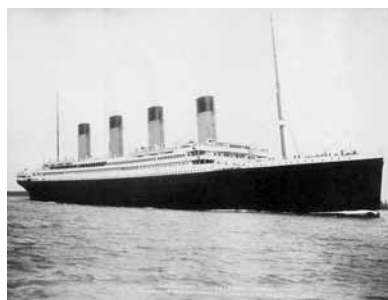
今回の監査室だよりでは、今からちょうど100年前に起きた「タイタニック号沈没」を教材にして、リスクマネジメントについて考えてみたいと思います。

冰山との接触

ギリシャ神話の巨人の神、タイタン（Titan）※にちなんで「巨大で剛健」タイタニック（Titanic）と名づけられた当時世界最大の豪華客船は、1912年4月15日未明、イギリスからアメリカに向かう北大西洋航路の最初の航海で沈没し、1,513人の犠牲者を出す大惨事を引き起こしました。その事故の直接原因は、氷山との接触でした。

氷の密度は920 kg/m³で、海水の密度1025 kg/m³に比べわずかに軽いにすぎず、また、氷山の90%は水面下にあ

◀ タイタニック号



氷山(合成写真) ▶



り、非常に頑丈で巨大な重量を有するため、航海する船にとって非常に危険なものです。

タイタニック号と氷山の接触は最大でも10秒間、船体の傷は損傷面を合計しても1mほどで、接触を回避できたのではないかと思えるほどの軽い衝撃であったと言われています。その程度の接触で、右舷船首に約90mにもわたって断続的に損傷を受け、衝突から2時間40分後に沈没に至ったのは、最近の研究では、船体鋼鉄の「低温脆性」によるものとの説もあるようです。

「不沈神話」おごりはなかったか？

タイタニック号は、イギリスの同じ船会社によりほぼ同時期に造船された「オ

リンピック号」（姉）・「ブリタニック号」（妹）とともに、オリンピック級3姉妹」と称されていました。

当時のイギリスの船舶技術雑誌が1911年に「オリンピック級特集」の中で、防水隔壁や防水扉の機能を評価し「practically unsinkable（事実上不沈）」と表現、これにマスコミが飛びつき、文明の進歩に対して楽観的だった時代の空気の中、いつの間にか「practically（事実上）」という単語が抜け落ち、「不沈神話」が広がったと考えられます。

緊急時に備えた装備は十分だったか？

タイタニック号は、1,178人分の救命ボートを装備していました。これは、当時のイギリス商務省の規定により計算される978人分を上回る数でした。しかし、タイタニック号の最大定員3,326人の3分の1にすぎません。当時は、大型客船が短時間で沈没するような事態は想定されていなかったという事で、現に、1909年1月の大型客船リパブリック号沈没事故では、他船との衝突から沈没まで38時間もの余裕があり、乗客乗員のほとんどが救出されていました。

突然の大幅人事異動、業務の混乱

タイタニック号出港の直前に、そもそも最初の航海であるところに、突然、航海士長等の上層スタッフの大幅人事異動

が実施されたとのことで、業務の混乱、モラルのダウンが生じたのではないかと推察されます。異動による混乱がもと

で、見張り用双眼鏡の収納場所が引き継がれないまま出港するという事態も起きていました。氷山との接触回避に役立ったかどうかは別にして、結局、この航海で双眼鏡は使用されることはありませんでした（氷山発見から衝突まで非常に短時間であったということですが、少しでも早く気付いていれば違う状況になっていたかもしれません）。

危機意識（リスクへの嗅覚）なし？ 重大情報を見逃ごし

タイタニック号は、14日午前中から、航海域における流氷群の危険を知らせる船舶間の無線通信を少なくとも6通受け取っていたとされています。しかし、この季節の北大西洋によくあることと放置され、さらに、すぐ近隣を航海する貨物船カリフォルニア号からの警告無線も、混線により見過ごしてしまいました。前日に無線機の故障があり、通信士たちは、溜まっていた乗客の電報発信に忙殺されていたという状況もあったようです。

必要な手順を踏まず、石炭庫火災

20世紀初頭、労働者階級の台頭が始まったこの時期、イギリスにおいても労働争議が全国に広がりを見せており、炭鉱労働者も立ち上がっていました。これ

た。ようやく手配した石炭でしたが、本来であれば、石炭は揮発性が高いため時間をかけて湿り気を与えながらストックするところ、その時間的余裕がなく積み込んだために船内の石炭庫で火災が発生し、事故当日の朝、ようやく鎮火したとのこと。ただ、当時は、石炭庫火災は珍しいことではなかったそうですが、この火災の影響で、石炭庫に隣接する防水隔壁の強度が弱くなっていたのではな

いかと言われています。

実は、船の方向を変える指令の言葉「starboard」＝右舷方向に（面舵）・「port」

られないことですが、当時は、左右逆の指令を意味する言葉としても混在していたのです。タイタニック号が氷山との接触回避行動の最初の段階で、左旋回せよとの一等航海士の指示の意図を取り違えて（パニックに陥って？）操舵手は逆の操作を実行してしまいました。

姉のオリンピック号が1911年9月にイギリス巡洋艦ホークと衝突事故を起こした際も、ホーク側が指示の左右取り違えを起こしていました。帆船時代の舵取りの指示と蒸気船での舵輪の操作指示が左右逆であったために起きる混乱で、同様の事故が頻発したそうです。

情報伝達なし、訓練不足、
方針伝達不明確

沈没時、タイタニック号の乗船人数は2,201名(客数1,316人、乗員数885人)でした。そして、先ほど述べたように、1,178人分の救命ボートを装備していました。しかし、救助された人数は711名でした。救命ボートをもっと有効に利用していれば、あと何人の人命が救われたはずですか。

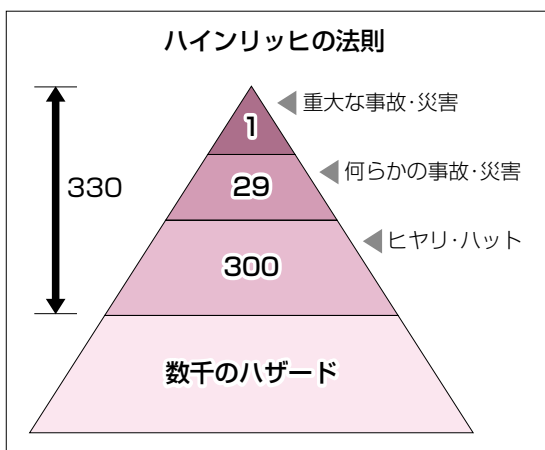
救命ボート昇降装置の能力に関する情報
報が伝達されていなかったこと、救命
ボートの収容能力への理解不足、乗組員
の訓練不足、左舷側と右舷側で女性・子
供優先の方針に解釈の違いがあったこと
（状況により柔軟に対応していた右舷側
の方がより効率よくボートを利用でき
た）、左舷側は硬直的に対応したため定員
に満たないボートが数多かった）等によ
りこのような事態となったのです。

船長は、接触の後、部下たちに脱出のための行動を指示しました。ところが、その後、茫然自失状態に陥って何の役割も果たせなくなってしまったのだそうです。加えて、ナンバー2である航海士長が所在不明になってしまったということ
で、全体をコントロールするリーダー不

原因は、2つの氷山？

明るみに出た、物事全体のほんのわず
 かの部分を「氷山の一角」と言います
 が、この氷山の形は、「ハインリッヒの
 法則」を図解するときによく模されます。

ヒが1929年に発表したもので、労働災害の統計を分析し、1件の重大な（重傷以上の）事故・災害の背景には29件の（軽傷の）事故・災害があり、何らかの（軽傷の）事故・災害があり、「ヒヤリ・ハット」（傷害には至らなかったが、危うく大惨事につながりかねなかった事象）が300件あること、さらに、数千もの「不完全行動」・「不完全状



事故・災害を未然に防止するには、「ヒヤリ・ハット」につながる数千という「不完全行動」・「不完全状態」ⅡハザードⅡ事故の拡大要因、潜在的要因となる原因（素因・誘因）をなくすことが重要です。

タイタニック号の沈没は、氷山との接触というペリルのほかに、もう1つの氷山である、たくさんのハザードの塊により引き起こされたと言わなければならない。そして、100年前に起きたこの事故が、今日の企業経営・組織運営にとつて、未だに、いくつもの教訓を与えてくれる教材たり得ていることは、悲しむべきことと言わなければならないでしょう。

- (参考文献(資料))
- (1) 「タイタニック号の最期」 ウォルター・ロード著
佐藤亮訳
- (2) 「タイタニック」失敗を繰り返さないために」
上原 守
- (3) 「タイタニック」フリー百科事典ウィキペディア
<http://www.jic-kyoto.jp/jic/index0430.html>
- (4) 「タイタニック」フリー百科事典ウィキペディア
<http://ja.wikipedia.org/タイタニック> (客船
「タイタニック」 出港前夜) 海・英国屋
- (5) 「氷山」フリー百科事典ウィキペディア
<http://ja.wikipedia.org/氷山>
- (6) 「ハインリッヒの法則」フリー百科事典ウィキペディア
<http://ja.wikipedia.org/ハインリッヒの法則>



愛知県酪農農業協同組合青年女性部



今月号では、愛知県酪農農業協同組合青年女性部の活動を紹介します。

地域に根付いたグループ活動



構成メンバーと地域

現在、愛知県酪農農業協同組合青年女性部（森富士樹部長）は構成人数293名で、愛知県内全域をカバーしています。主な活動は、農場訪問や料理教室、畜産イベント等であつたりと多岐に亘ります。今回はその活動の一部を紹介させていただきます。

父の日に牛乳(ちち)を贈ろう！キャンペーン

父の日キャンペーンの活動は、青年女性部が最も力を入れている一つです。そのため、6月は農家さんや事務所の職員の方も気合が入っていて、2つのイベントを行いました。

一つ目は、愛知県知事への牛乳贈呈。今年度は、昨年の6月に就任された大村知事に牛乳を贈呈しました。牛乳を飲んでもらうだけでは満足できない青年女性部は、牛乳にアレンジを加え、バーテンダーのように牛乳をシェイクし、大村知事に牛乳を贈呈。カラフルな牛乳に知事もびっくりしながらも、今まで経験したことのないアレンジに喜び驚きながら牛乳で乾杯。きれいに飲みきっておられました。

二つ目は、日頃、自分たちのために一生懸命働いてくれているお父さんに感謝の意味を込めて、似顔絵とメッセージを書いてもらう、「メッセージコンテスト」を実施。

優秀作品に選ばれたお宅を訪問し、子供たちから、お父さんへのメッセージが読み上げられます。子供たちからの感謝の言葉が述べられるとお父さんたちは日

◀ 牛乳の贈呈の様子



「父の日に牛乳(ちち)を贈ろう！」▶



頃の疲れが吹き飛ばす笑顔になりました。当日は、テレビ局による取材もあり、大所帯での活動となりました。

畜産フェスタ

10月には、畜産フェスタにおいて、カウペインティングコンクールを開催しています。

今年度は子供たちに牛の絵を描いてもらいました。独創的でカラフルな色使いで描かれた絵は、酪農関係者には刺激的です。子供たちの発想は想像以上です。

グループ名	愛知県酪農農業協同組合 青年女性部
部長	森 富士樹
地区	愛知県内全域
メンバー数	293名



◀ 参加者が増えて机をどんどん持つてきました

堆肥研修会

愛知県立農業大学校及び農業試験場とタイアップをし、「家畜ふん堆肥の評価・利用技術―売れる堆肥作り―」と題された研修会には、愛知県内から多数の農家が参加しました。

耕種農家が求める堆肥作りとは？求められる堆肥の条件等、農家が最も興味ある部分をわかりやすく、説明していただきました。

料理講習会

今年の1月に牛乳を使用した料理を調理し、飲むだけでなく食べることも牛



料理講習会

乳を消費することを目的に行われたこのイベントは、牛乳、チーズやヨーグルトといった乳製品を多数使用します。

講師の先生の言うとおり調理が出来ず、四苦八苦しながら調理されている姿は、なかなか面白いです。

ソフトバレー大会

ソフトバレーボールは男女混合で6つのチームに別れ、真剣にバレーボールを追いかけていました。当日は一段と冷え込んだ気候でありましたが、参加者は汗だくになりながら、プレーしていました。点が入るとハイタッチで喜び、負けたらどうなれるというまさに一喜一憂そのものの。

また、コートの横ではキャンドル作りが行われました。クリスマスも間近に控えているため、参加者は熱心に作り上げていました。

「ソフトバレーボール大会」と「キャンドル作り」を楽しんだ後には、牛乳鍋で体を温めました。

最後に

愛知県酪農農業協同組合青年女性部の活動は、仲間同士の懇親を中心に、牛乳の消費拡大や酪農技術向上等、幅広い活動をしています。部員数が約300名と大所帯ではありますが、なぜこのような活動ができるのかは、役員を中心に柔

◀ 白熱！ソフトバレー大会



軟な発想と行動力があるからだと思います。事務局はただ役員・部員の方達について行くのみ！

特に、牛乳消費拡大活動については、自分が楽しみながら、酪農を心から愛し、その素晴らしさを多くの人に伝えたいとの想いがあるからだと感じました。

厳しい酪農情勢が続いている中で、愛知県酪農農業協同組合青年女性部はそれを吹き飛ばすために模索中です。

平成23年度

監事・役職員研修会

2月9日(木)～10日(金)、平成23年度監事・役職員研修会を開催しました。当研修会は全国の会員組合の監事・役職員を対象に毎年開催しており、今年は、箱根町の「ホテルおかだ」において、会員酪農協・関係団体及び本会から合計78名の参加となりました。

研修会1日目には、本会総務部総務・広報課 石本文樹課長より「BCP（事業継続計画）について」と題して、講演がありました。BCPとは、災害時に、特定された重要業務を中断しない、また万一事業活動が中断した場合は目標旧時間内に重要業務を再開させる、企業を守るための経営戦略のことであり、昨年の東日本大震災の発生を受けて、改めて注目され、策定をする企業が増えています。講演では、震災発生後の本会の対応について振り返り、BCP策定の重要性、また策定時のポイントが説明されました。後半には丸紅経済研究所 美甘哲秀所長より「TPPは日本をどう変えるのか」と題した講演がありました。美甘所長は、TPPの基本的な考え方について解説され、日本農業の現状を踏まえて、TPPに参加した場合について、「ピンチをチャンスに変える」という視点から説明されました。

美甘所長

務・責任について、また監査のポイントについての説明がありました。研修会は2日間に亘り、いずれも長時間の研修でありましたが、参加者は大変熱心に聴講されていました。また、提出いただいたアンケートからは、「組合の役員としての責任を痛感した」「今回の研修を今後の業務に生かしたい」等、参考になる内容であったという意見が多数ありました。

本会では、会員組合の機能強化の1つとして、このような会員組合の監事・役職員を対象とした研修会を開催しています。

肥後監事

開催しています。今回のアンケート結果をもとに、会員の皆様がより参加しやすく、必要とされる内容の研修会を今後とも開催してまいりますので、ぜひご出席いただきますようよろしくお願いいたします。

なお、当研修会の内容についてのご質問・また資料請求のご希望等がありましたら、全酪連指導・企画部（03-5931-8003）もしくは各支所指導組織課までお問い合わせください。



石本課長



▶ 研修会の様子

札幌
支所発

平成23年度乳用育成牛委託販売研究会 研修会開催

平成24年2月3日(金)に北海道音更町ホテル大平原にて、乳用育成牛委託販売研究会による平成23年度研修会が開催され、道内農協担当者や受け入れ農家等合わせて32名が出席しました。研修会



▲ 高久予防課長

ではまず預託受入農家を視察し、各農家の受入体制や管理状況について研修しました。次に家畜伝染病予防法の改正について等講演会を十勝家畜保健衛生所の高久英徳予防課長、藤吉聡獣医師をお招きして実施しました。



◀ 研修会風景



◀ 受講者

仙台
支所発

「畜舎環境美化コンクール・審査会を開催！」 — みやぎの酪農農業協同組合 —

2月10日(金)、みやぎの酪農農業協同組合(濱田茂代表理事組合長、宮城県遠田郡美里町)・本所の大会議室で「畜舎環境美化コンクール」の審査会が開催されました。

同コンクールは、畜産のイメージアップをはかるとともに畜産物の消費拡大を推進するため、県内の酪農家の環境保全意識向上を図り経営の安定的発展を目的として、年度当初に全戸に配布された花の苗を育て、その苗(花)を基調として牛舎周辺を草花で彩りその美しさを競うこととなっており、婦人部の後援により毎年開催されています。

また、審査方法は県内各地から写真により出品(昨年5月から11月までに撮影された草花に彩られた牛舎周辺の写真)された環境美化の成果を評価し、宮城県畜産課草地飼料班・半沢技術補佐、濱田組合長、婦人部・甲田部長をはじめ18名の審査員が審査にあたりました。そして審査員一同は、3月

に発生した東日本大震災にも負けずに美しく咲き誇った花々の出品写真(出品数17)の前で感心したり、また癒されています。



▲ 審査会の様子

厳正なる審査の結果、最優秀賞は石巻支部の須藤しづ子さんに決定されました。須藤さんはここ数年連続して最優秀賞に選ばれています。また、優秀賞には大崎支部の佐々木礼子さん、仙南支部の木村せい子さんに決定されました。

なお、コンクール入賞者への表彰式は、3月上旬にみやぎの酪農協・本所にて行なわれる予定となっています。

南信酪農協より

「なんらく新春交流会」開催

去る1月24日(火)、「なんらく新春交流会」が組合員・関係者約200名が出席して、松本市(長野県)で開催されました。開会に当たり主催の南信酪農業協同組合柳澤宏組合長より、『組合員の分布も南北に長く広範に及んでいるが、今日は皆が一堂に会することができた。



▲ 柳澤組合長による挨拶

酪農情勢を盛り返し、組合員が元気になってもらおう一日になればありがたい。』旨のご挨拶がありました。

続いて、高校野球(甲子園)の強豪校として知られる松商学園高等学校の吹奏楽部による演奏が行われ、木管アンサンブルによる流麗で繊細な演奏、金管アンサンブルによる華麗で迫力ある演奏が、最後には打楽器を含めた部員全員による演奏が披露され、その響きの素晴らしさに出席している全員が魅了されました。

食事会の間も、南信酪農協職員コーラス部より皆が良く知っている曲を素敵な歌声で披露され、最後には会場全員による合唱となりました。その後も、地元在住の吉本興業所属若手コンビ「こてつ」による健康漫才、県内木曽出身の女性歌手による演歌ショーと新春らしい華やかさの中で会は進みました。

そして、いよいよ出席した組合員の皆さんお待ちか



◀ 南信酪農協職員コーラス部



◀ 抽選会の豪華商品

ねの抽選会です。大きな蘭の鉢植え、お米を始め県内産農産物、乳製品セット等、豪華景品が柳澤組合長による抽選で次々に手渡されました。



▲ 演歌ショー

当日は前夜からの大雪にもかかわらず、中南信広域の組合員さん多数が参加され、共に新年を祝い、新たな年に向け酪農に取組む意識を高揚し、親睦を深めました。なお、この交流会は(株)全国酪農協会の地域酪農活性化事業による助成を受け、実施されました。

(Y.S)



◀ 松商学園高等学校吹奏楽部による演奏

東京
支所発

粗飼料事業推進研究会 国内研修会開催

2月10日(金)、全酪連東京支所管内粗飼料事業推進研究会(須田会長、赤城酪農業協同組合連合会 業務部長)主催の国内研修会が東京都内にて開催され、11会員及び関係部署等総勢23名が参加しました。

本研修会では、「牛用飼料の暫定許容値の見直しと粗飼料の安全確保」(講演者:農水省生産局畜産部畜産振興課草地整備推進室 課長補佐 丹菊将貴氏)、「土壌から飼料作物への放射性セシウムの移行と低減対策、今後の課題」(独立行政法人 農研機構 畜産草地研究所 飼料作物研究領域 原田久富美氏)の2題の講演が行われました。

丹菊氏からは今年4月から施行予定の食品の放射性セシウムの新基準値・経過措置に併せて、飼料中の新暫定許容値の具体的な数値、見直しの背景である移行係数を用いた科学的根拠、粗飼料の安全確保に向けた除染と利用可能な事業、許容値を上回る牧草の適切な処分方法等をご説明頂きました。

丹菊氏による▶
講演の様子



▲開会の挨拶をする須田会長
(左から須田会長、丹菊氏、原田氏)

原田氏からは土壌から作物への放射性セシウムの移行について、これまでの研究成果をお話しいた

だきました。講演の中では、粗飼料の安全確保に向けた具体的対策方法として、施肥管理(カリウム・石灰・アンモニア施肥)・草地更新(特にプラウ耕による完全更新)が移行低減に有効であること等をご説明頂きました。

昨年6月の研修会(2011年8月号:No.551に掲載)に続き、放射能関連の話題で多くの質問・意見が飛び交い、実りある研修会となりました。今後も粗飼料事業推進研究会は、タイムリーな情報の共有化のため、こうした研修会を定期的開催する所存です。

(T.K)

名古屋
支所発

東海酪農農業協同組合連合会・三重県酪農農業協同組合連合会主催 「食べる牛乳セミナー」開催

2月2日(木)、三重県津市において、三重県の栄養教諭及び酪農家を対象とした「食べる牛乳セミナー」が開催されました。

東海酪農農業協同組合連合会及び三重県酪農農業協同組合連合会主催で開催されたこのセミナーには、約50名の参加がありました。

講師には、料理家・管理栄養士・フードコーディネーターの小山浩子先生をお招きし、「牛乳と食育のおはなし」等、様々な説明をしていただきました。

講演の後には、小山先生による料理講習会が開催され、牛乳をたっぷり使用した作品を参加者全員で試食しました。

参加者からは、意外なアイデアが豊富にあり、取り入れてみたいとの声もあがっていました。

みなさん熱心に
傾聴されていました▶



▲講演の様子



▲大内山酪農協の牛乳をたっぷり使用



◀試食の様子

福岡
支所発

今こそ「絆」共に守ろう、うまか牛乳!!

— 九州酪農青年女性会議・平成23年度指導者研修会 —

九州酪農青年女性会議主催の「平成23年度指導者研修会」が1月25(水)～26日(木)、「ホテルセントラザ博多」(福岡)で、『今こそ「絆」共に守ろう、うまか牛乳』をメインテーマに約150人が参集し開催されました。

開会では、主催の九州酪農青年女性会議・結城委員長挨拶の後、地元を代表して福岡県農林水産部畜産課 課長 古賀 康弘氏、ふくおか県酪農農業協同組合 副組合長理事 草場 哲治氏より祝辞をいただきました。

研修会では、宮崎大学農学部獣医学科 末吉 益雄教授より「2010年口蹄疫との闘いと防疫対策の現状と課題」と題して講演がありました。

末吉教授は、宮崎で口蹄疫が発生した際に、現地調査員として活動された経歴があり、講演の中ではその当時の様子を、映像を交えてお話しなされました。会場からは、当時殺処分をされなければならなかった牛たちの映像を見て、多くの方が涙を流しながら末吉教授のお話を聞いておられ、このような事態を二度と引き起こさないため防疫対策についても深く学びました。

その後、2つ目の講演として、ふるさと料理人 藤清光 先生より「食はいのち」と題して講演がありました。牛乳と食育についての話を中心に、様々な健康の為のレシピや、その開発までのエピソードを話してくださり、独特の博多弁を用いた話で、会場を笑いの渦に包んでいました。先生が当日販売されたレシピ集も大好評で、あっという間の完売でした。



▲ 圧倒的な優勝を果たした大分県チーム



▲ 研修会の様子



▲ 結城委員長による主催者挨拶



▲ ふくおか県酪協 草場副組合長による祝辞

研修会後の交流会は、結城委員長の開会挨拶、ふくおか県酪農農業協同組合 代表理事常務 寺崎 秀樹氏 からの歓迎の挨拶の後、福岡県農林水産部畜産課 技術主査 佐々木 真二 氏のご発声により、牛乳による乾杯で始まりました。その後、会は穏やかなうちに進行し、地元福岡から「カントリーダンス」、「バナナの叩き売り」が余興として披露され、会は大いに盛り上がりしました。

2日目は、ボーリングによるスポーツ大会を「博多スターレーン」で開催しました。

個人の点数を競う個人戦と、各県の一人当たりの平均点数を競う団体戦を行ったのですが、なんと個人戦の1位～3位まで大分県チームが独占し、団体戦でも圧倒的なスコアでの優勝を果たしました。

最後に、次回開催県である宮崎県を代表して、宮崎県酪農青年女性連絡協議会の日高副会長が閉会の辞を述べ23年度指導者研修会は幕を閉じました。

(K.T)

【個人戦】

1位 釘宮 修 (大分)
2位 木村 連太郎 (大分)
3位 指原 義久 (大分)

【団体戦】

1位 大分県
2位 佐賀県
3位 熊本県

大阪
支所発

牛乳ってすばらしい — とくしまミルクセミナー 2012 —



▶ 230名の方が
参加しました

2月11日(土)、徳島市の「あわぎんホール」において、牛乳の消費拡大を図る「とくしまミルクセミナー 2012」(主催: Jミルク徳島、共催: 徳島県酪農業協同組合・四国生乳販連)が開催されました。セミナーは広く一般消費者に参加を呼びかけ、当日は230名の参加がありました。Jミルク徳島・山下信良会長と徳島県・立川進畜産課長の挨拶が行われ、セミナーがスタートしました。



▲ 浅野講師

セミナーは、講師の雪印メグミルク(株)関西コミュニケーションセンター課長の浅野美貴子さんが牛乳のすばらしさを会場の参加者に伝えました。管理栄養士の資格を持つ浅野さんは、「牛乳・乳製品を摂ると太る」等の間違った情報に惑わされないようにと呼びかけ、牛乳の栄養についてわかりやすく説明をし

ていただきました。特に、骨粗しょう症予防にカルシウムを豊富に含む牛乳が骨の健康を守り、元気に生活することができることを強調されていました。

浅野課長の講演の後は、「チーズせんべい」と「すだち牛乳」の試食・試飲が行われました。「チーズせんべい」はスライスチーズを食べやすい大きさに切り、電子レンジを利用して手軽に作れます。「すだち牛乳」は地元特産のすだちを牛乳に加えるものでさわやかな味になりました。会場からは「おいしい〜」との声が聞こえました。セミナーは消費者に牛乳のすばらしさをアピールし、消費拡大につながるイベントとなりました。



▶ 「チーズせんべい」と「すだち牛乳」



▶ 試飲・試食を楽しむ参加者

原稿募集

「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、B&W、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先 皆様のお近くにありますが本会支所までご送付・ご連絡ください。

■札幌支所

〒060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目1 酪農センター 5階
tel. 011-241-0765

■仙台支所

〒980-0021

仙台市青葉区中央1-7-20 東邦ビル3階
tel. 022-221-5381

■東京支所

〒108-0014

東京都港区芝四丁目17番5号 田町プレイス5階
tel. 03-5931-8011

■名古屋支所

〒465-0095

名古屋市名東区高社1-89 第2東昭ビル2階
tel. 052-771-7104

■大阪支所

〒532-0011

大阪市淀川区西中島5-14-10 サムティ新大阪フロントビル6階
tel. 06-6305-4196

■福岡支所

〒812-0016

福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル7階
tel. 092-431-8111



酪政連活動報告

(平成24年1～2月)

日本酪農政治連盟

1/25	三役会議、常任・中央合同委員会 ◆平成24年度概算決定予算、畜酪要請内容の件 ◆今後の酪政連活動の件	2/9	TPPを慎重に考える会勉強会 (幹事長ほか)
2/1	デーリィジャパン誌取材 (委員長ほか) ◆TPP参加阻止活動の経過、今後の活動について	2/10	自民党畜酪小委員会 (委員長、幹事長ほか) ◆畜酪対策に係る団体からのヒアリング
2/2	TPP対応検討協議会幹事会 (幹事長ほか) ◆今後の活動について	2/14	民主党酪畜WT (幹事長ほか) ◆農水省からの酪農情勢等ヒアリング、意見交換
2/2	TPPを慎重に考える会勉強会	2/15	事務局長・担当当事会議 (委員長、幹事長ほか) ◆24年度農水予算の件 ◆23年度酪政連運動報告、決算概要の件
2/3	自民党農林部会、畜酪小委員会 ◆24年度予算説明、意見交換 ◆畜酪のスケジュールについて	2/16	TPPを慎重に考える会勉強会 (委員長、幹事長ほか) ◆米韓FTA概要について
2/7	農水省牛乳乳製品課打合せ (幹事長ほか) ◆放射性物質線量基準値変更の件	2/21	民主党酪畜WT (委員長、幹事長ほか) ◆24年度酪畜対策に係る団体からのヒアリング
2/8	自民党懇話会 (委員長) ◆党幹部と団体長との意見交換	2/23	中央常任委員会 ◆24年度通常総会議案、24年度畜酪対策要請内容の承認

イベントのご案内

平成24年 各地域酪農青年女性(婦人)会議 酪農発表大会

発表大会	開催日	開催場所
第40回北海道酪農青年女性会議酪農発表大会	3/29(木)	札幌市中央区北5条西7丁目2-1「京王プラザホテル札幌」
第41回東北酪農青年婦人会議酪農発表大会	3/21(水)～22(木)	秋田県鹿角市十和田大湯字中谷地5-1「ホテル鹿角」
第41回関東甲信越酪農青年女性会議酪農発表大会	3/22(木)～23(金)	新潟県新発田市月岡温泉134番地「華鳳」
第41回中部酪農青年女性会議酪農発表大会	4/11(水)～12(木)	石川県加賀市山代温泉19-49-1「ゆのくに天祥」
第43回西日本酪農青年女性会議酪農発表大会	4/26(木)～27(金)	徳島県徳島市万代町3-5-1「徳島グランヴィリオホテル」
第41回九州酪農青年女性会議酪農発表大会	5/16(水)～17(木)	鹿児島県鹿児島市新照院町41-1「城山観光ホテル」

事務所移転のお知らせ

兵庫県酪農農業協同組合連合会が、
事務所を移転しました。

会員名：兵庫県酪農農業協同組合連合会

移転日：平成24年2月23日(木)

移転先：〒650-0011

兵庫県神戸市中央区下山手通6丁目3-28

兵庫県中央労働センター3階

【電話】：(078)361-8145

【FAX】：(078)361-8149

※電話・FAX番号は変更ありません。



No.226

 (有)ナカシマファーム
佐賀県嬉野市

▲ 中島さんご家族

(左から大貴さん、蓉子さん、建治さん、構治さん、千歳さん)

Challenge My Dream!!

嬉野市塩田町の紹介

有限会社ナカシマファーム（以下、(有)ナカシマファーム）がある佐賀県嬉野市塩田町は町の中央に塩田川を抱き、古くは宿場や水陸交通の中心地として栄えました。全国的にも有名な塩田町の地酒「東一」「東長」をこよなく愛する勇ましい男性と、日本三大美肌の湯「嬉野温泉」が生み出す美肌女性があふれるこの町は、自然も人もとても美しい町です。

(有)ナカシマファームのご家族紹介

(有)ナカシマファームは笑顔がさわやかな中島構治さんを中心に、料理上手な千歳さん（奥様）、元氣な建治さん（父）と蓉子さん（母）、イケメンの大貴さん（息子）、AKBに入れそうなくらい美人の千明さん（娘）と千晴さん（娘）、人懐っこいキナコ（猫）の7人1匹です。牧場の仕事だけでなく、構治さんはバイクツーリング好き、子供たちはテニス好き（高校時代はインターハイの常連という実力！）という



▶ 牛舎全景、ほとんどが構治さんの手作り

の常連という実力！）という

多趣味のご家族。現在、娘2人は大学進学のため県外にて一人暮らし中ですが、いつも笑顔の耐えないにぎやかな牧場です。

牧場の概要

現在、フリーストール牛舎で経産牛約70頭、別棟の育成牛舎では育成牛約25頭を飼養しています。ここ20年間ほど牛の導入は行っており、全て自家産牛です。自給飼料は給与せず全て購入粗飼料ですが、良質な粗飼料を給与することを最優先に取り組んでいます。平均個体乳量は33kg、乳成分は乳脂肪3.57%、無脂固形8.72%、乳蛋白質3.28%、乳糖4.44%、体細胞数21万です。

牧場の歴史

(有)ナカシマファームは、昭和30年頃、構治さんの祖父と父が購入した



▶牛舎内の様子、こども手作り



◀堆肥舎の様子、こども手作り



ホルスタイン1頭から始まりました。構治さんが農業高校を卒業するときには15頭ほど飼育しており、構治さんは牧場の跡継ぎになることを決意。その後、北海道で2年間、カナダで1年間の牧場研修を行い、21歳で就農しました。北海道で研修中に30頭規模の木造つなぎ牛舎に規模拡大していました。自身が就農した時期は生乳生産調整が厳しい時期で「増頭した際の借金もあり、どん底からスタートだった」と語ります。当時は水田との兼業によりなんとか生活できていたそうです。23歳のとき、牧場の名義を父から構治さんに変更し、牧場のオーナーになりました。

その後、十数年かけて負債の返還を行い、負債がなくなった段階で構治さんは「もつと頭数を増やした い」という次の夢を追いかけ始めました。構治さん自身、カナダでの研修やアメリカの酪農を見て、増頭してフリー体系で牛を飼いたいという想いがずっとあった、と言います。しかし、情熱はあってもお金がない。じゃあ、自分で牛舎を作ろう！と、15〜16年間かけて現在のフリーストール牛舎を手作りで建てました。友人が鉄工所をやっていたためその鉄工所に通って勉強させてもらい、設計・材料調達・建築等全て自分で行いました。「雑誌等を見て手作り牛舎を作っている人がいたから、自分もやればできる！」と思って始めたけれど、初めて鉄の塊が牛舎に届いたときは、もう逃げられない、やるしかない！と焦ったよ」と、当時の思いを振り返ります。また、つなぎ牛舎の時はイタリアンやデントコーン等自給飼料を中心に飼育していましたが、水田地帯のため自給飼料の作付が難しく、フリーストール牛舎になった段階でオール購入体系に切り替えました。少しでもコストを抑えるため乾草をコンテナ購入できるように、牧草倉庫も手作りで建てました。現在は、自給飼料を作っていた土地では、集落営農で米・麦・大豆を作っています。

また、3年前から大学を卒業した大貴さんが就農しました。高校・大学と建築学科を専攻した大貴さんで

オリジナル製品への夢、アイスクリーム販売

構治さんの夢は牛舎建設では終わりません。次の夢は「自分の牛乳のオリジナル製品を作りたい！」。何を作るか悩んだそうですが、アイスクリームならみんな大好きだということ、平成13年ごろから「牧場からの贈り物」というオリジナルアイスクリームの販売をスタートしました。製造は県内の工場に委託していますが、期間限定でJ・Rで販売したときには、委託先が困ってしまうほど売れたそうです。現在、このア



育成舎の様子、とても気持ち良さそう

イスクリームは牧場かインターネットで購入することができます。

命の勉強、教育ファーム

また、(有)ナカシマファームは平成21年より教育ファームの認証を受け、子供たちの体験学習の受入れを行っています。消費者がいつでもたくさん来ていいように、見られて恥ずかしい部分がないように、牛舎の中はいつもきれいです。構治さんは「教育ファームは、命の勉強をする



▲(有)ナカシマファームは酪農教育ファームの認証を受けている。

挑戦は続く、チーズ事業

(有)ナカシマファームの次の挑戦は、チーズ事業です。今から10年ほど前に、構治さんが地域交流牧場全国連絡会の会員になったとき、周りの酪農家がチーズを作っているのを知って興味を沸いた、と言います。



手作りのチーズ工場

チーズは、簡単に作れないからこそ奥が深く牧場のオリジナリティが出せること、在庫が可能であることから、取り組んでみたいとの想いが強くなったそうです。また、料理好きの千歳さんがそばにいることも、その想いを叶える大きな原動力となりました。

しかし、チーズは食品です。チーズの製造・販売を行うためには、衛生的なチーズ工場が必要となります。牛舎建設を経験した構治さん、「チーズ工場も自分で作ろう!」と決意。建築学科を卒業した大貴さんがデザインを作り、構治さんが建設作業を行うという、親子2代が力を合わせたチーズ工場が2012年明けに完成しました。実際にチーズの製造・販売を行うには書類上の手続き等まだ時間がかかりますが、「まずはフレッシュチーズからスタート

したい。全国ナチュラルチーズコンテストで九州のチーズは有名。行き詰まったときには九州には優秀な製造者がたくさんいるというのも、私のチーズ事業の強みです。いつか、そのコンテストで優勝できるようなチーズを作りたいですね」と、目をキラキラさせて語ってくれました。

これからの牧場の挑戦

今までも歩みを止めることなく、いろいろな事業に取り組んできた(有)ナカシマファーム。構治さんのこれらの挑戦は「経営の効率化」だと言えます。「土地の制約があるためこれ以上の規模拡大は難しいのが現実。だからこそ、個体当たりの乳量を追求し、乳成分の安定を図りたい」。

一方、大貴さんの目標は「素人目線を忘れずに、おかしいと思うことを変えていくこと」。高校・大学と農業とは関係ない分野を専攻し就農した大貴さん。就農当初は「農家の感覚に戸惑うことが多かった」と言います。「生き物を飼っているのだから汚くて当たり前」という考えに對して、「牧場は食品を生み出す場所なのに、その考えはおかしい!」と牛舎の清潔感を積極的に改善してきました。特に、就農後最初に努力したのが堆肥問題。「堆肥代としてガソリン代だけいただくとしても、お金をいただく以上はお客様目線で



バーラーの様子

の品質の安定は必要だと思う。だから、お客さんに待ってもらってでも良質な堆肥をお届けしたい」と、実際に、全酪連担当者が牛舎を訪問した際に「堆肥の乾燥が良くなくて」と牛舎の空きスペースに堆肥を広げ、耕運機で堆肥を乾かす姿を見かけたことがありました。このような努力が功を奏し、当牧場の堆肥を求める顧客が多く堆肥が足りない状況が続いているようです。また、堆肥が捌けるペースが速いので、牛舎に臭いが少なく清潔な環境が保たれています。「住宅地域に隣接した牧場であることと、有限会社という看板を背負っていることもあって、将来的に牧場を経営していくためには地域住民と共存していくための努力がより一層必要だと思っています」。

牧場関係者からすると堆肥は堆肥だけど、地域住民からすれば堆肥はただのウンコなんです。だから、堆肥

で道路を汚すことは良くないことだし、汚したときには掃除をするのは当たり前。有限会社としてのプライドと、素人目線の感覚を忘れないように、これからも牧場に携わっていききたい」と、熱い想いを語ってくれました。

常に夢を追いかけて続け、その夢を実現させてきた(有)ナカシマファーム。構治さんの笑顔には「酪農が楽しい!」という想いがあふれています。これから先もこの好奇心とパワーを忘れずに新たな挑戦を続け、酪農業界のリーダーの一人として走り続けてほしいです。

最後に、お忙しい中取材にに応じてくださった(有)ナカシマファームの皆様にご心より感謝申し上げます。ともに、当牧場のさらなるご発展とご活躍をお祈りいたします。

(F・Y)



(有)ナカシマファームの牛たち、みんなカメラ目線

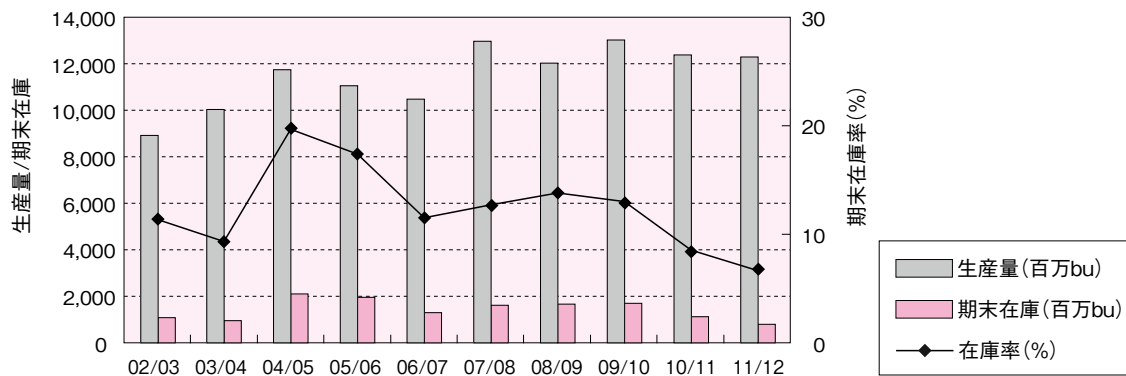


原料情勢

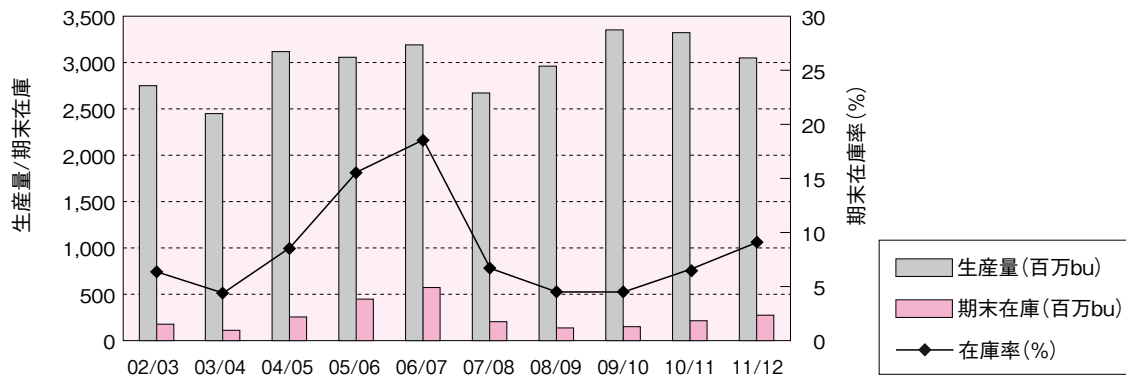
平成24年2月

2月9日発表 米国農務省トウモロコシ 需給予想	【10/11年産】 作付面積88.2百万（前月88.2百万）エーカー、単収152.8（152.8）bu/エーカー、生産量124億4,700万（124億4,700万）bu、総需要量130億5,500万（130億5,400万）bu、期末在庫11億2,800万（11億2,800万）bu、在庫率8.6（8.6）%。
	【11/12年産】 作付面積91.9百万（前月91.9百万）エーカー、単収147.2（147.2）bu/エーカー、生産量123億5,800（123億5,800）bu、総需要量126億7,050万（126億5,500万）bu、期末在庫8億100万（8億4,600万）bu、在庫率6.3（6.7）%。
トウモロコシ相場動向	今後のシカゴ相場は、米国産の輸出増加の可能性といった強材料があるが、米国エタノールが史上最大の在庫を抱えて需要が頭打ちになること、作付面積は今年度対比で増加の発表が見込まれていることから大きな上昇の可能性は低いのではないと思われる。
国内産大豆粕	国内需給については、国産大豆粕発生量は依然低調で数量に大きな変化は見られない。国内大豆粕の発生は低調だが、現時点では受け渡しには問題ない見込み。価格については、輸入大豆粕相場はシカゴ相場が強含んでいるため、値を上げている。また、国産と輸入産の価格差については、依然、国産が輸入の価格についていけず、割高な状況。
槽糠類	一般ふすまは、配合割合はやや減少していると思われる。小麦の挽砕量は相変わらず低調な様子であるが、しばらくは受け渡しには問題ない見込み。グルテンフィードは、配合割合は減少していると思われる。発生量は徐々に増加している様子。しばらくは受け渡しは問題なく推移すると考える。
海上運賃	海上運賃は、ガルフ-日本航路（パナマックス）では大きな下げは見られない。一方、イラン情勢不安から燃料価格が高騰しており海上運賃の上昇材料視されており、今後の情勢次第では、更なる上昇が懸念される。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢

平成24年2月

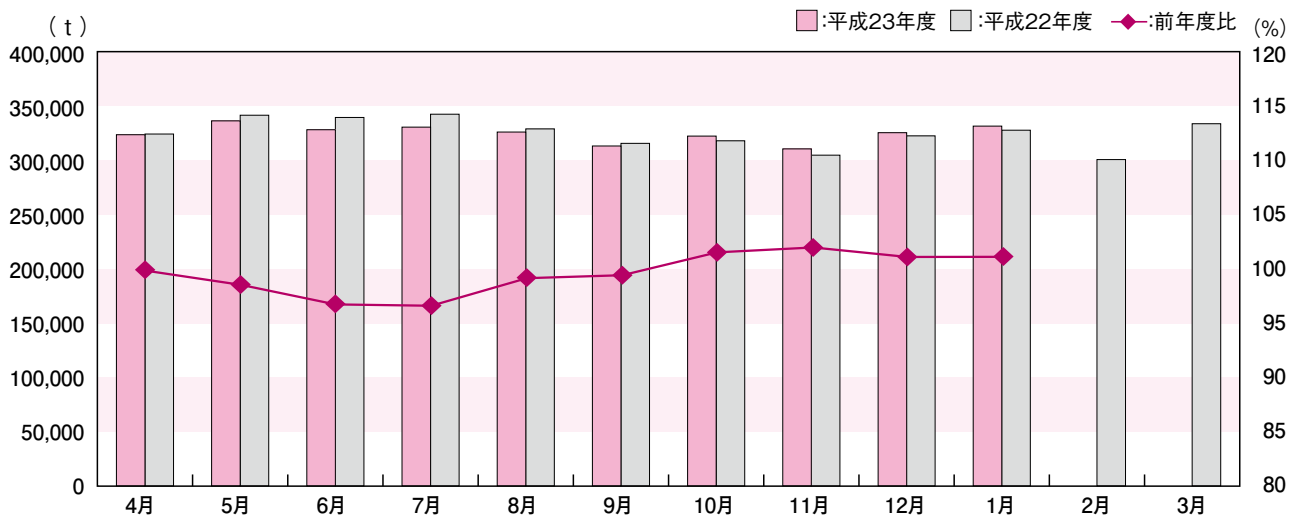
北米コンテナ船 プレート	WTSA加盟の船会社から、2月1日よりGRI値上げの発表がされたが、各船社・航路とも対応はまちまちの様子。WTSA未加盟の船会社も同様で、3月1日から実施すると発表している模様。海上運賃は各船社とも大きな値上げの動きはないが、中・長期的には強含みで推移することが予想される。PSW、PNWともに、船腹スペースと空コンテナが不足しているため、船積み遅延が引続き目立っており、すぐには解消されないことが懸念されている。
ビートパルプ	【米国産】11年産ビート大根は、作付けの進捗が遅れ、収穫も10年産よりも20日ほど遅れて開始された。その結果、作付面積は前年比で4.6%増加したものの、ビートパルプの生産量は前年比で15%近くも減少すると見込まれている。11年産の産地価格は開始と同時に10年産よりも高値で推移している。 【中国産】11年産のビートパルプは、10年産よりも作柄が良好と伝えられている。以前は旧正月前に換金目的で安値玉も出回ったが、近年では出回らなくなっている。国内需要はさらに増えることが予想されているため、かなり限定的となることが予想されている。
アルファルファヘイ	【ワシントン州】11年産1番刈も2番刈でも雨当たり被害が多数発生し、プレミアム品は限定的となった。11年産の生産量は12%程度も減少している模様。また、BIGベールでの収穫が増えており、3タイのプレミアム品が大きく減少している模様。BIGベールでの収穫については、12年産以降もますます増えることが予想され、今後も3タイのプレミアム品は生産量が減少していく傾向にあると思われる。 【オレゴン産】産地での余剰在庫はほとんどない模様。同州での11年産アルファルファの生産量は前年並みに落ち着いている。BIGベールでの収穫が増えており、12年産以降も3タイのプレミアム品の確保が難しくなることが予想されている。 【ネバダ産】11年産の生産量は前年よりも8%程度も減少している模様。この地域では国内向け（特にカリフォルニア州）の需要が強く、さらに大手サプライヤーも積極的に買付けをしているため、産地での余剰在庫はほとんどない模様。また、BIGベールでの収穫が12年産以降もますます増えることが予想され、今後も3タイのプレミアム品は生産量が減少していく傾向にあると思われる。 【カリフォルニア産】11年産の生産量は前年よりも4%程度減少している模様。UAEや中国を中心に輸出向けの引合いが強く、また国内向けの引合いも強いいため、産地での余剰在庫はほとんどない模様。作付面積は前年対比97%となっている。間もなく12年産の1番刈が開始される模様で、2月中下旬から収穫が始まると予想されている。 【ユタ産】11年産の生産量は、前年よりも10%程度増えていると予想されている。しかしながら、大手サプライヤーも積極的に買付けをしているため、また国内向けの引合いも強いいため、産地での余剰在庫はほとんどない模様。
チモシー	【米国産】11年産の荷動きは順調で、余剰在庫はほとんどなく、2番刈のローグレード品だけがわずかに残っている模様。豪州産11年産オーツヘイの状況から、代替として米国産チモシーの引合いが増えている模様。堅調な需要に反して、「これ以上の高値（＝儲け）は期待できない」と多くの生産農家が考えており、12年産の作付面積は減少すると一部では予想されている。 【カナダ産】11年産の荷動きは順調で、ハイグレード品の余剰在庫もほとんどない模様。豪州産11年産オーツヘイの状況から、代替として引合いが増えている模様。12年産の作付面積は増える予想される一方で、作付面積は減少するとも予想されている。
スーダン	【インペリアルバレー産】11年産のハイグレード品は荷動きも順調で、余剰在庫はほとんどない状況となっている。中間グレード・ローグレード品についても、余剰在庫はほとんどない模様。産地では小麦の作付けが開始。作付面積は前年対比125%となっている。小麦の作付面積が増えるときは、価格は強含みに推移する傾向が例年みられる。また、種子価格が値上がりし、生産農家のスーダングラスの作付け意欲が低減しているとも伝えられている。一方で、豪州産オーツヘイの情勢から、12年産は強い引合いで開始すると予想されている。
クレイングラス	他の禾本科の乾牧草よりも比較的安い価格帯となっているクレイングラスへの引合いは依然として強く、余剰在庫はほとんどない状況。そのため、産地価格は強含みで推移している。12年産の作付面積は増えることが予想されており、1/15時点でのエーカレージレポートによると前年対比107%となっている。
バミューダ	バミューダヘイ、バミューダストローともに強い引合いがあるため、輸出入供給量は減少し、産地での余剰在庫はほとんどない模様。そのため、産地価格は強含みで推移している。12年産は11年産の繰越在庫がない状況下でスタートする見込みのため、今後も引続きタイトな状況が続くと予想される。
ストロー類	8月中旬から収穫が始まったライグラス（ペレニアル種）については、雨当たり被害を免れたが、フェスキューは、雨当たり被害が多く発生。韓国向けの引合いもさらに強まっているため、産地価格は強含みで推移している。11年産のフェスキューは、良品の確保が難いため、サプライヤーによっては雨当たり品も、ノーレイン品よりも多少安い価格で船積みをしている模様。
オーツヘイ	【西豪州産】雨当たり被害が大量に発生しており、深刻な事態となっている。ハイグレード品については、かなり限定的な数量となっている。雨当たりのローグレード品が大量に発生する結果となったが、韓国向けに少しずつ引合いが増えてきている模様。雨当たり被害により輸出向けオーツヘイの生産さえできない圃場も多く、生産農家は厳しい経営を強いられている。安定した収入が見込める穀類への転作が多いと予想されるため、12年産の作付面積は減少することが早くも懸念されている。 【南豪州産】雨当たり被害が多く発生。西豪州ほど酷くはない作柄・状況であるが、雨当たりを免れたノーレイン品は少ない状況。南豪州でも、韓国向けに少しずつ引合いが増えてきている模様。しかしながら、他と比べ、アデレード港（南豪州）出しの船積みスペースのタイト感は顕著で、恒常化している。11年産は、日本向けの船積み西豪州から南豪州に多くシフトすると見込まれるため、不安定なデリバリーには注意が必要。 【東豪州産】雨当たり被害が多く発生。南豪州よりも作柄・状況は悪くない模様であるが、雨当たりを免れたノーレイン品は少な状況。この地域は豪州国内で最大の酪農・肥育の生産州で、ローグレード品を中心に国内向けの引合いも強くなっている模様。

平成23年度（1月）地域別生乳生産量

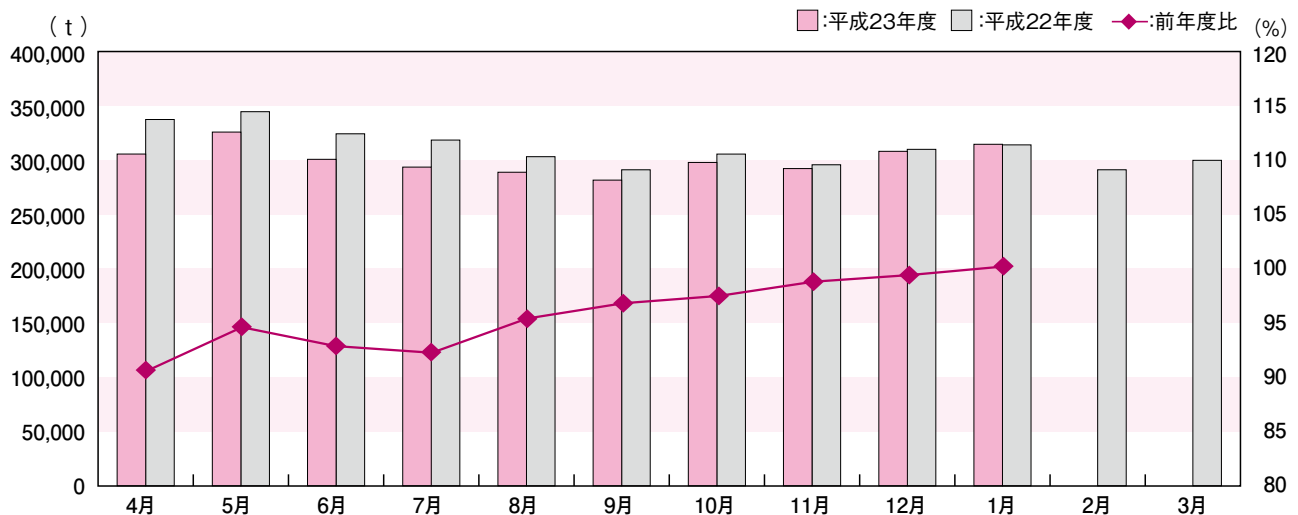
単位：t

	全 国	北海道	東 北	北 陸	関 東	東 山	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
22 年度 1 月	641,451	327,537	53,142	8,877	93,653	11,185	34,441	17,468	25,489	11,994	55,379	2,286
2 月	591,460	300,485	49,135	8,301	86,294	10,298	31,730	16,199	23,639	11,160	52,094	2,125
3 月	633,178	333,487	37,250	9,365	85,702	11,482	35,953	18,426	26,825	12,663	59,613	2,412
23 年度 4 月	628,833	323,368	43,133	9,188	88,938	11,210	35,422	18,134	26,388	12,438	58,169	2,445
5 月	661,818	336,125	50,251	9,474	97,497	11,746	36,169	18,439	27,407	12,648	59,547	2,515
6 月	628,574	327,964	47,467	8,678	89,927	11,199	33,209	16,713	25,181	11,497	54,408	2,331
7 月	623,805	330,363	47,146	8,259	87,626	11,259	32,171	16,385	24,631	10,943	52,721	2,301
8 月	614,552	325,838	48,003	8,025	85,889	11,088	31,040	16,162	24,107	10,659	51,538	2,203
9 月	594,466	313,005	47,323	7,707	82,863	10,857	30,317	15,519	23,565	10,534	50,642	2,134
10 月	619,843	322,112	50,137	8,147	88,027	11,085	32,618	16,214	24,827	11,039	53,418	2,219
11 月	602,420	310,328	49,086	7,959	86,312	10,743	32,225	16,013	24,147	10,937	52,508	2,162
12 月	633,207	325,234	51,663	8,513	90,717	11,280	33,692	17,036	25,222	11,636	55,987	2,227
1 月	645,750	331,298	52,019	8,829	92,456	11,185	34,749	17,486	25,865	12,036	57,569	2,258
前年同月比	100.7%	101.1%	97.9%	99.5%	98.7%	100.0%	100.9%	100.1%	101.5%	100.4%	104.0%	98.8%
23 年度累計	6,253,268	3,245,635	486,228	84,779	890,252	111,652	331,612	168,101	251,340	114,367	546,507	22,795
前年同月比	97.6%	99.5%	91.2%	93.9%	95.1%	98.2%	97.7%	94.8%	97.2%	96.1%	99.1%	98.0%

北海道の月別生乳生産量



都府県の月別生乳生産量

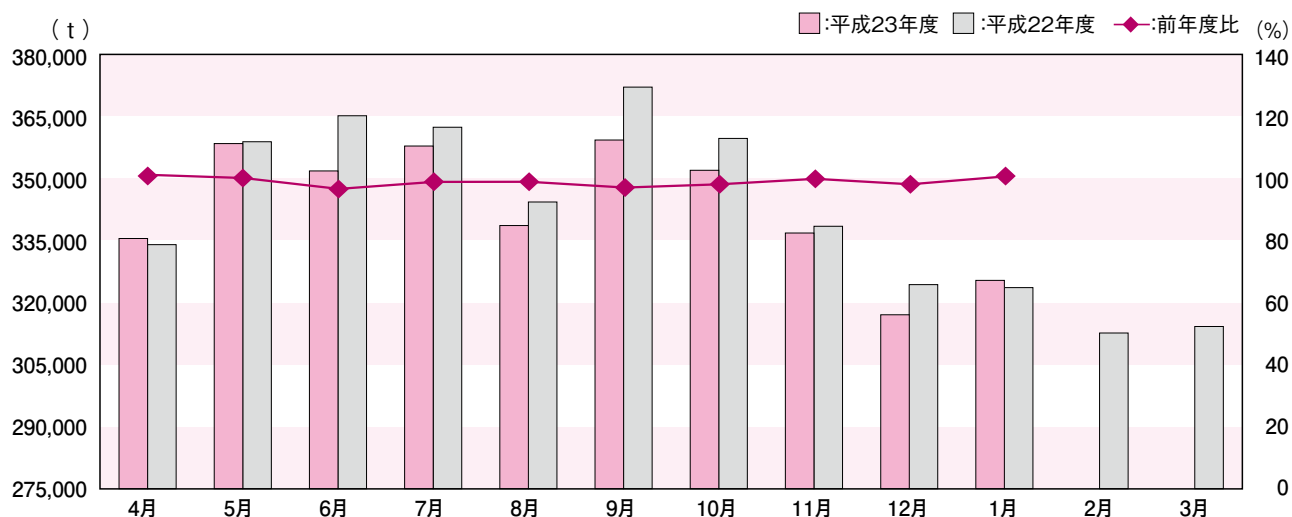


平成23年度（1月）用途別処理量

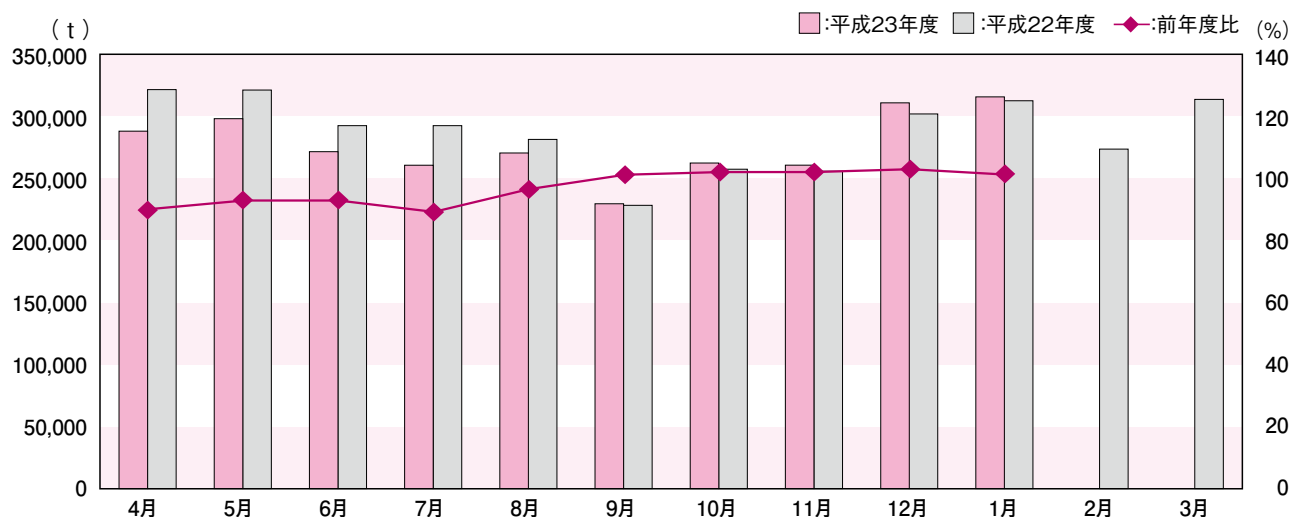
単位：t

	用 途 別 処 理 量							欠 減
	生乳生産量	牛乳等向け	業務用向け	乳製品向け	チーズ向け	クリーム等向け	その他	
22年度 1月	641,451	323,603	22,603	312,431	47,990	89,110	5,417	988
2月	591,460	312,633	22,039	273,485	43,553	87,695	5,342	948
3月	633,178	314,206	19,911	313,529	44,805	84,570	5,443	1,553
23年度 4月	628,833	335,472	22,962	287,933	41,455	96,214	5,428	1,317
5月	661,818	358,410	26,317	297,991	43,325	98,744	5,417	1,002
6月	628,574	351,800	23,936	271,407	41,464	99,952	5,367	953
7月	623,805	357,820	21,463	260,499	40,080	106,648	5,486	1,054
8月	614,552	338,603	24,216	270,357	40,712	106,994	5,592	1,102
9月	594,466	359,270	27,189	229,452	32,181	104,967	5,744	1,192
10月	619,843	351,958	29,171	262,271	38,368	110,428	5,614	1,076
11月	602,420	336,798	29,374	260,547	38,338	108,557	5,075	886
12月	633,207	317,039	27,191	310,749	39,974	109,880	5,419	957
1月	645,750	325,351	24,812	315,558	46,565	96,795	4,841	1,002
前年同月比	100.7%	100.5%	109.8%	101.0%	97.0%	108.6%	89.4%	101.4%
23年度累計	6,253,268	3,432,521	256,631	2,766,764	402,462	1,039,179	53,983	10,541
前年同月比	97.6%	98.6%	99.5%	96.6%	98.3%	105.0%	90.7%	67.9%

牛乳等向け処理量の推移



乳製品向け処理量の推移



※農林水産省統計部が公表した「牛乳乳製品統計」をもとに本会酪農部で集計した。

作品募集のお知らせ

主催：全国酪農青年女性会議

第39回

らくのう こどもギャラリー

1 募集規定

- (1) 酪農を中心とした題材の図画・工作など(大きさは自由)。
- (2) 自作で未発表のものに限ります。
- (3) 作品には、題名・住所・氏名・年齢・学校名・学年・保護者名を必ず記載してください。また、酪農家の子弟については保護者の所属組合名を記載してください。
- (4) 作品返却を希望される方は応募時に返却希望の旨を申し出てください。

2 応募資格

4歳から中学生までの酪農家の子弟、および酪農に関心のある一般のお子さん。

3 締切日

平成24年5月25日(金)(当日消印有効)

4 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性(婦人)会議事務局宛に提出してください。

5 審査結果の発表

「第41回全国酪農青年女性酪農発表大会」の発表資料要旨、および全酪連会報7月号に審査結果を掲載いたします。

6 褒賞

- ・特選 1点
 - ・入選 4点以内
 - ・秀作 若干
 - ・ファミリー賞 若干
(牛とのふれあいなど、ほのぼのとした雰囲気を持つ作品に贈られます)
 - ・あすなろ賞 若干
(小学校入学以前の方の優秀作品に贈られます)
- ◎特選に選ばれた方は、保護者(1名)同伴で「第41回全国酪農青年女性酪農発表大会」に招待します。
- ◎入賞者には記念品を贈呈いたします。
- ◎図画の優秀作品は「全酪連会報」の表紙に、作者の顔写真と審査講評を最終ページに掲載します。



第38回特選 「牛のちちをしぼるぞ」
石原 輝さん

第3回

酪農いきいき フォトコンテスト

全国酪農青年女性会議では、酪農家の生活や牛乳の生産現場をより鮮明に消費者に伝えていくことを目的に、「酪農いきいきフォトコンテスト」を実施します。

つきましては、下記のとおり作品を募集しますので、ふるってご応募いただきますようお願い致します。

1 テーマ

- ①「牛のいる風景」
- ②「酪農作業風景」

※いずれも、酪農家がいきいきと乳牛生産に励む様子や、安心安全な乳牛生産のため懸命に仕事に取り組む姿勢が感じられるようなもの。



「ボク、手伝うよ!」 富樫麻衣氏

2 募集規定

- (1) 写真は可能な限りデータで提出下さい。
- (2) 自作で未発表のものに限ります。
- (3) 作品には、題名・氏名・住所・所属組合名を必ず記載してください。

3 応募資格

酪農家

4 締切日

平成24年5月25日(金)(当日消印有効)

5 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性(婦人)会議事務局宛に提出してください。

6 審査方法

応募作品を「第41回全国酪農青年女性酪農発表大会」の会場内に掲載し、大会参加者の投票による審査を行います。
(応募多数の場合は事務局による予備審査を行います。)

7 審査結果の発表

- ①「第41回全国酪農青年女性酪農発表大会」2日目に投票結果として掲示します。
- ②「全酪連会報」の表紙に使用します。(号数未定)

8 褒章

- ・特選 1点 (2テーマの中で特別に投票数の多かった作品)
 - ・入選 若干数 (特選を除いて投票数の多かった作品数点)
- ◎入賞者には賞品を贈呈いたします。
- ◎提出していただいた作品の返却は致しません。
- ◎応募していただいた作品は、全酪連会報への掲載を含め、今後各地での牛乳消費拡大活動(「父の日に牛乳を贈ろう!」キャンペーン含む)で使用することがありますのでご了承ください。

提出先一覧

■北海道酪農青年女性会議
〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1
酪農センター 全酪連札幌支所内
TEL 011-241-0765

■東北酪農青年婦人会議
〒980-0021 仙台市青葉区中央1-7-20
東邦ビル 全酪連仙台支所内
TEL 022-221-5381

■関東甲信越酪農青年女性会議
〒108-0014 東京都港区芝四丁目17-5
全酪連東京支所内
TEL 03-5931-8011

■中部酪農青年女性会議
〒465-0095 名古屋市中区東高社1-89
第2東昭ビル2階 全酪連名古屋支所内
TEL 052-771-7104

■西日本酪農青年女性会議
〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-14-10
サムティ新大阪フロントビル6階 全酪連大阪支所内
TEL 06-6305-4196

■九州酪農青年女性会議
〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-2-15
事務機ビル 全酪連福岡支所内
TEL 092-431-8111

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

事 務 所	畜 種	相場(万円)	価格状況	管 内 状 況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	29～35	▲	2月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で101.3%、累計で100.7%。苫小牧管内月計で99.9%、累計で96.1%の実績となっております。価格動向ですが、育成牛は初妊牛の高値の影響によりやや強含みでの取引で推移するものと思われます。初妊牛につきましては、5月以降の分娩になることから府県需要は強く、高値で推移するものと思われるが、一方で高騰による買い控えも出てくるのではないかと考えられ、総合的に判断するとなや強含みで推移するものと思われます。また、経産牛につきましては、品質の良いものは高値での取引となるものと思われます。
	初 妊 牛	53～59	▲	
	経 産 牛	40～45	➡	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30～35	▲	2月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で100.9%、累計で99.4%、中標津管内月計で102.7%、累計で100.5%の実績となっております。初妊牛価格動向ですが、年度内の駆け込み需要と、助成金等の関係から2月と同様に高値で取引される模様です。F1腹と雌雄選別腹は、ほぼ同じ値動きとなっており、またホルス腹についても、資源が少ないことや地元の引き合いが強いため、雌雄選別腹との価格差はほとんどない状況です。3月については5月分娩での取引が中心となりますが、昨年の8月の暑さの影響で授精がずれこみ、5月分娩は資源が少なく、6月分娩まで購買が掛かりそうな状況が予想されます。
	初 妊 牛	55～60	▲	
	経 産 牛	45～50	▲	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	30～35	▲	2月中旬までの生乳生産量前年比は、月計で100.8%、累計で100.1%の実績となっております。初妊牛価格の動向ですが、5月～6月分娩が中心となりますが府県需要の増加等により価格は高値で推移することが予想され、また、F1腹・ホル腹の価格差も少なくなる状況です。また、雌雄選別腹は2月同様、資源が少ないため、引き合いが強くなることが予想されます。
	初 妊 牛	55～60	▲	
	経 産 牛	45～50	▲	
道北管内	育成牛(10-12月令)	25～30	➡	2月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計100.7%、累計99.0%、北見管内月計で100.0%、累計99.7%の実績となっております。初妊牛の動向ですが、5～6月分娩が中心となりますが、5月分娩牛については多くがすでに販売されており、資源的に厳しい状況にあります。府県からの購買に加え道内での購買も活発に行われており、F1、ホル腹ともに先月と同様に高値で推移するものと思われます。
	初 妊 牛	55～58	➡	
	経 産 牛	42～48	▲	
道内総括	育成牛(10-12月令)	29～35	▲	2月中旬までの生乳生産量前年比は、月計で100.9%、累計99.5%となっております。初妊牛の動向ですが、5月分娩牛は、資源不足なことから6月分娩の取引が多くなると予想されます。年度内導入が条件という所もあり、駆け込み需要があることから価格も堅調に推移するものと予想されます。
	初 妊 牛	55～60	▲	
	経 産 牛	43～50	▲	



今月の



入賞作品介绍

牛となかよし

平野小学校(東北)2年 片山くるみ

今月の入選作品は、福島県 平野小学校(東北)2年の片山くるみさんの「牛となかよし」です。

牛さんと子供たちがうまく画面の中に配置できましたね。バックの緑色の濃淡にも繊細さを感じられます。小気味よいリズムが絵から伝わってきます。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第38回らくのうこどもギャラリー」で全国279点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議